

取組名称	地域課題に立ち向かう農人と森の番人プロジェクト『チームひなた』			団体設立後の経過年数	6年
応募取組主体名称	株式会社日向屋	活動地域	和歌山県	応募取組の活動年数	7年
取組主体の種類	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門 (概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください) / その他				
応募取組に関する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨	和歌山県田辺市上芳養日向地区は主産業が農業の中山間地域であり、鳥獣害、農家の高齢化・担い手不足、耕作放棄地等、農家の生活や環境を取り巻く課題が地域の存続に直結します。地域を環境、経済、社会の各面で持続可能にするため、日向地区で農業を営む日向屋、ジビエ処理施設ひなたの杜、フレンチレストランcaravansaraiの3社が「狩る→解体→食す」で協働し、地域課題解決とビジネスの両立や地域内外の人材交流、育成に取り組んでいます。
実績の要旨	鳥獣害に対しては県内80人以上の狩猟への協力により年約600頭を解体し、農家の高齢化・担い手不足に対しては、21年度は20件以上の農作業を受託し、農業への貢献と収益化を両立しています。耕作放棄地は農地化し、それを含め約6ha農地が拡大し収穫量が増大すると共に、農業研修生の独立時に譲渡しています。6年で900人以上の人材と交流し、内100人以上の若者が農作業を手伝い、移住者、農業研修生、地元の子供達等の人材育成にも注力しています。

取組評価の要旨	環境への貢献	地域の主産業である農業を守りながら、野生動物の生活も維持するために共存共栄を意識して狩猟を行っています
	社会・経済への貢献	6次産業化により地域の仕事を増やし、加工・販売する農作物の一部は地域の農家から相場より高く買い取っています
	地域資源の活用	鳥獣害を「地域課題」から、ジビエや体験事業として、収益化や地域内外の人材交流を生む「地域資源」に活用しています
	普及・汎用性	「狩る→解体→食す」を見学・体験可能にし、視察、地域学習、関係人口講座を受け入れ、多くの人へ取組を伝えています
	革新・ユニーク性	運営計画を立て、解体頭数の安定、高い技術・品質、取引先の拡大により、民設民営のジビエ処理施設を黒字化しています
	継続性	地域内外の子供達、若い世代の体験や授業を受け入れ、次の世代に地域を繋ぐための人材育成や関係人口作りを行っています

展望の要旨	日向地区での地域課題解決の取組を他地域へ拡大すると共に、若い世代との交流や担い手育成に力を入れていきます
-------	--